

学習内容報告書 2

学校名	外ヶ浜町立蟹田中学校
授業者	高井 洋

1. 単元計画

1-1. 単元名

運動やスポーツの安全な行い方

1-2. 学年

1 学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

保健体育

1-4. 単元の概要

海水浴場での事故防止や海難事故に遭遇した場合の対処の方法を扱う。そのため、外部講師をお願いし救急の場合どんなことができるか、また海難事故に遭わないための方法を実習しながら学習する。また実際海水浴場を使って実習することで、より必要性を感じさせる。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

陸奥湾は内海であり、比較的波は穏やかである。学区内には海水浴場が2つあり、海での水泳の機会も多い。安全に海のスポーツを行うためには、地域性を生かし、海の安全を確認することや準備運動、適切な休憩などが大事になることも指導する。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・海難事故を防ぐための手立てと、いざというときの対処方法を身につける。
- ・どんな運動やスポーツでも安全に行うための手立てを常に考える態度を養う。

1-7. 単元の展開（全 時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	（教室）海水浴場での水泳の機会も多いので、安全にスポーツを行うためには、どんなことに注意すればよいか話し合う。また、いざというときの対処方法についても考える。	海の楽しさと怖さを理解し、安全に楽しむための注意点を押さえる。準備運動、適切な休憩などの他に、仲間の安全にも配慮が必要で、いざというとき救命ができるか考えさせる。
1 本 時	（観覧山海水浴場）着衣をつけたときの泳ぎにくさを体験するとともに、溺れた人の救命方法を体験することで救助の基本を確認する。	講師を日本赤十字社青森県支部に依頼する。 海難事故の恐ろしさと救助の基本を身につけさせる。

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

2-2. 本時の目標

衣服を着けたときの泳ぎにくさを体験するとともに溺れた人の救助方法を体験することで、海難事故の恐ろしさと救助の基本を身につける。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>スクールバスで学校から海水浴場まで移動する。</p> <p>1, 講師紹介 挨拶する。</p>  <p>2, 今日の目的を確認する。</p> <p>3, 準備運動をする。</p> <p>4, 衣服を着たまま入水する。</p> <p>5, 水着の時との違いを確認しながら泳いでみる。</p>  <p>6, 力をぬいて浮かぶ練習をする。</p>  <p>7, 身の回りにあるもので救助できる方法に挑戦して</p>	<p>・講師の日本赤十字社青森県支部指導員の江良さんと斎藤さんを紹介する。</p> <p>・体調と安全に細心の注意を払うことを強調する。</p> <p>・急に深く入らず、徐々に体を水温に慣らす。あらかじめ危険なエリアに近づかないように注意する。</p> <p>・泳ぎやすさの違いに着目させる。一人一人の行動に注意し、異常があったらすぐに中止する。</p> <p>・一人でできたら、二人、三人と手をつないでみる。</p> <p>・ペットボトルを使う方法やレジ袋を使う方法などで救助できないか試してみる。</p> 

みる。

8, 講師からまとめをきく。



9, 挨拶し、後始末をする。

・講師の江良さんから今日のまとめをしてもらう。

・講師の江良さんと斎藤さんへお礼を述べる。

3. 今回の活動の自己評価

少し肌寒い天候であったが、海水浴場を使って実習できたことがよかった。怪我なく全員安全にできたことが何よりで、さらに救助救命に携わっている方の話を聞いたことがとてもよかった。海の安全を十分意識できる内容であったと思う。

4. 今後の課題

毎回、講師を依頼できるとは限らない。指導内容を蓄積し、必要に応じて先生方で指導できるようにしていきたい。また、実施時期が夏休み前がよいか、それとも夏休み中がよいかは検討課題である。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

浅く、波が静かな海水浴場なので安全に実施できるが、それでも事故に備え細心の注意が必要である。

*その後、学年レクとして棒パン作りをして冷えた体を温めながら、昼食をとった。

